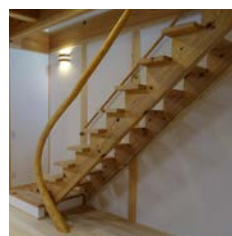


やすらぎの家



松波邸の一番のコンセプトは、
夏 涼しくはないけど暑くない。
冬 暖かくないけど寒くない。
家にいながら健康体になり、しかも
電気や器具は使用せずに日本の四季
に順応できる家です。

私の考える家づくりに賛否両論があるかとは思いますが、私は自信を持っています。私はこの松波邸の家を「伝家（でんか）」と名前をつけたいと思っています。

本物の木の家であり、日本の家の伝統を受け継ぎ次の世代に「伝える家」であって欲しいと思います



スピノフをローラーで塗布



やすらぎの家



九州での実例



基礎内に塗ったスピノフ

やすらぎの家

岐阜の地域風土に対応

まず家建てるにあたり土地の地盤調査をし、その結果浜松の業者による砕石パイル工法にて土地改良をし、大切な家を守るために最も大切な土地を強固なものにした。

次に基礎工事であるが、ベタ仕上げの布基礎とし、そのベースとなるベタモルタルは通常よりもさらに厚く仕上げることにした。通常ならここで乾きを待つて土台を伏せ、上棟となると同時にシロアリ予防対策として基礎内に全てスピノフをローラーにて仕上げ、底冷えする岐阜の地域風土に対応するための処理をしておいた。

九州鹿児島地方での実例もたくさんあり、スピノフの基礎内の塗りは、シロアリ・湿気対策に大いに役立っているのである。



構造材は天然乾燥の天竜杉



土台の能登ヒバ 基礎パッキンにはユーカリ材



美しい木組み



柱目の美しい柱

木組みの美しさ、 そして木の素晴らしさ

そして構造材に話は移るが、まず大切な土台の木には石川県能登半島にある「能登ヒバ」地元ではアテと言われているシロアリや湿気に強い木を使用している。（適材適所）

そして柱には、地元東濃松の役物を使用、通し柱にも使用し、二階の柱には柱目の美しい秋田杉の芯取り割角を使ってみた。さすがに柱目取りの柱は美しくそして素晴らしい。

そして構造材には全て天然乾燥の天竜杉を使用し、梁背一尺以上は樹齢百五十年余りの芯取り梁・桁を使用している。やはり芯付きと芯取りの梁・桁は顔が違うのである。芯取りの梁は実に美しい木目をしている。

そして大垂木であるが、これも百五十年の芯取りの梁を小割に製材し、柱目の素晴らしさが見えるようにしてみたが、これも実に美しく化粧野地の板目と実にバランスよく決まっている。しかも化粧野地の厚みは、一寸厚さ30ミリと厚く、もちろん、天然乾燥にて仕上げてある。



野地垂木を 455mm ピッチで取付け



天竜杉の化粧野地



スピンオフルーフィング



断熱材の上から 15mm 厚の杉板を施工

日本の四季に対応する

屋根からの熱の侵入を防ぐために化粧野地の上にまず野地垂木を455ミリピッチで棧を打ち、その間に断熱材を入れ、しかも本来コンパネにて屋根仕地を作るところを、杉の15ミリ厚・巾240ミリの杉板を使用し、本来なら通常ルーフィングを施行して瓦をのせ仕上げるのだが、今回はルーフィングにスピンオフを塗布したスピンルーフィングにて、屋根全体を覆い屋根からの熱侵入を防ぎ、しかも二階のロフト・部屋に輻射熱を最小限に抑え、夏冬そして日本の四季に対応できうる施工をしています。

通常の二階は夏暑く、とてもロフトにはいられない。しかもこの家にはエアコンが付いておらず、果たしてこの方法で岐阜の四季を通して過ごせるのか本当に楽しみである。



縦の木の床



仕上げのスピンオフ



ウォルナットの天板と縦の木のキッチン



スピンオフのコテ仕上げ

スピンオフの効果

そして外部の仕上げだが、37ミリパワーボードを使用している。その理由はやはり多孔質の空気層があり夏の暑さ、そして冬の冷気の侵入をこの空気層が防いでくれる。しかもその仕上げにはスピンオフをローラーで塗布し万全の対策をとっている。

しかも内装の仕上げにもすべてスピンオフのコテ仕上げをしているのである。スピンオフの特性としてほんの少しの熱でもすぐ同化し、夏は風を入れることですぐ室内の温度を下げてくれるのである。現状ではこのスピンオフに対抗できうる塗料は無いかもしれない。

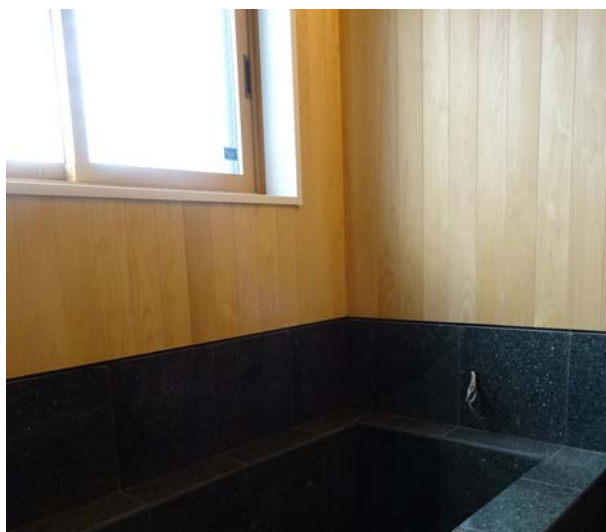
しかも床・壁・天井には樹齢三百五十年のモミの木を使用し、調湿効果においてはこれ以上のものはないと考える。もちろん建具にもモミの木を使い、二階の秋田杉の柱に合わせ、建具にも秋田杉を使用している。全てオーダーの手作りである。そしてキッチンや食器棚には天板にウォルナット、そして他はすべて縦の木のオーダー品である。



早く帰りたくなる家



角閃石の浴槽



カベには水に強い青森ヒバ

家にいながら健康体に

最後にどうしても伝えておきたいことがある。浴室である。浴室は多くはユニットバスが本流ではあるが私は昔からどうしても体が受け付けないため、浴槽を木で作ったりしたものである。今回は岩手県にある遠赤外線を放射するすばらしい角閃石を使用し、壁天井には青森ヒバの香りを楽しんでいただくため、天井には能登ヒバ、カベには青森ヒバを贅沢に使用してみました。

家にいながら健康体になっていく、これが本当のやすらぎの家なのかと自負しています。

(株) 日本I S J 研究所

施工 内藤材木店